



32 萬歳楽置物 山崎朝雲 一点

昭和三年（一九二八）木彫、彩色
四八・〇×六七・五×六〇・〇

即位の礼で演奏される舞楽「萬歳楽」の舞人を写真的に、優美に表した木彫作品。昭和三年の即位の礼に際して、学習院が彫刻家山崎朝雲（一八六七～一九五四）に制作を依頼し、献上した品である。朝雲は大正期から昭和初期にかけて雅楽の舞人を主題とした作品を幾つか手がけており、制作に際しては、宮内省式部職楽部へ通い、雅楽やその装束を研究したという。本作はカツラ材、彩色は作者自らによるもので、実際の装束に忠実に緻密にほどこされている。

作者の朝雲は、博多に生まれ、郷里の仏師のもとで木彫を学んだ。明治二十年に独立、同二十八年の第四回内国勸業博覧会に《養老孝子》を出品して高い評価を受けた。また高村光雲が同博覧会の審査員を務めていたこともあり、翌年二十九歳の時に上京を決意、光雲の門下に入り、以後その薫陶を受けた。明治三十年代には塑造も学び、伝統的な木彫に西洋彫刻の技法と写実表現を結びつけた独自の作風を築き、神話や伝説あるいは歴史上の人物像、幼児を主題とした作品等を制作した。これらの主題や柔らかなその作風が好まれたのか、皇室にゆかりの作品は多く、当館に引き継がれている朝雲の作品は九点、記録の上からみても展覧会における宮内省の買上、御下命作、外部からの献上の品は合わせて二十五点あまり認められる。昭和二年には帝國美術院会員、同九年には帝室技芸員となり、木彫界の重鎮として活躍した。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzokan